

2022 年度 後期 教養教育		日英区分:日本語
キャリアデザインについて考えてみよう		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2425	LB-1-AS0033-J	【教養教育】学びのリテラシー (2)
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
恩幣 宏美 [Ombe Hiromi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

今後、変化の激しい社会で活動、活躍する皆さんにとって、アイデンティティを活かして仕事をする事、ライフコースについて考えることは重要となる。そこで、本講義では、自律したキャリアをデザインするために必要な知識やスキルについて、文献や資料、フィールドワーク、プレゼンテーションを通して理解する。

具体的には、

1. 自分自身について理解する
2. コミュニケーション力の必要性和スキルについて理解する
3. 社会で働くことの意味について理解する
4. 国内外の理論からキャリア発達について理解する
5. ライフコースを通じての「自分自身」のキャリアデザインについて理解する
6. わかりやすいプレゼンテーションを実施する

■ ■ 授業の到達目標

1. 自分自身について客観的に省察できる
2. コミュニケーションを高めるためのスキルについて説明することができる
3. 仕事と社会に関する文献検討から、社会で働くことの意味について説明できる
4. 国内外の文献とからキャリア発達について説明できる
5. キャリアデザインについての自分の考えを説明することができる
6. わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる

■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

- A : 諸科学についての基礎的知識と理解○
 B : 論理的・創造的思考力◎
 C : コミュニケーション能力◎
 D : 社会的倫理観・国際性◎

■ ■ 授業概要

キャリアデザインを検討するにあたり必要となるキャリアに関する理論の定義や概要、スキルについて学習する。また、自身および国内外におけるキャリア発達に関する課題を検討することで、今後、社会で活動・活躍するために必要となるコミュニケーション力やクリティカルシンキングに関する力を養う。継続教育の実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、キャリアデザインの授業を行う。

■ ■ 授業の形式 (授業方法)

講義、グループワーク、フィールドワーク、課題レポート、プレゼンテーション

■ ■ 授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 自分を知る：SWOT分析
3. 自分を知る：学生力診断
4. 自分を知る：社会人基礎力
5. 自分を知る：今までの軌跡と経験を知る
6. 自分を知る：今後の生き方を考える、ライフコース
7. 自分を知る：コミュニケーション力
8. 社会を知る：働くとは？ ロールモデル
9. 社会を知る：ワークライフバランス
10. 社会を知る：会社、企業とは
11. 社会を知る：日本のキャリアに関する現状を知る1
12. 社会を知る：日本のキャリアに関する現状を知る2
13. 社会を知る：世界のキャリアに関する現状を知る1
14. 社会を知る：世界のキャリアに関する現状を知る2
15. まとめ

最終試験：レポート課題の提出

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

様々な文献や資料、新聞等を読むことと、レポートとプレゼンテーションの準備を行うための時間が必要となる。

■ ■ 成績評価基準 (授業評価方法) 及び 関連するディプロマポリシー

グループワークへの参加度 (20%) C、プレゼンテーション (30%) A・B・C・D、個人レポート (50%) A・B・Dの割合で総合的に評価する。

評価はS (90-100点)、A (80-89点)、B (70-79点)、C (60-69点)、D (59点以下) の5段階で、Dは不合格とする。ただしSは、クラスの5%以下とする。

■ ■ 受講条件 (履修資格)

グループワークに積極的に参加することが条件となる。グループワークのため受講者数は25名までとする。

■ ■ メッセージ

今後、社会で活動、活躍するためには、キャリアデザインを踏まえて、充実した大学生活が大切です。その基礎となる知識とスキルをぜひ、一緒に考えていきましょう。欠席の際は、必ずメールでお知らせください。また、グループワーク等でパソコン等を使用するため、ご準備ください。

■ ■ キーワード

キャリアデザイン、キャリア発達、アイデンティティ、ダイバーシティ、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

学びのリテラシー1

■ ■ 次に履修が望まれる科目

各学部の専門科目

■ ■ 関連授業科目

特になし

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

指定図書はないが、適宜、参考図書を紹介する。また、講義時に資料を配布する。

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3451>

■ ■ 授業言語

2022 年度 後期 教養教育		日英区分：日本語
知っておきたい肺とアレルギーの話		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB2209	LB-1-HS0011-J	【教養教育】健康科学科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
久田 剛志 [Hisada Takeshi]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

肺は、酸素を取り込む臓器です。常に外界（周りの空気）と触れ合っているため、多くの病気がおこりえる。アレルギーを含めた呼吸器の疾患について、医療関係者のみならず、皆が知っておきたい肺とアレルギーの基本知識についてやさしく解説する。呼吸器を中心として、病気の成り立ちや予防法、治療法の基礎を理解し、今後の生活、職業、研究などに役に立つ基本的な知識を身に付けることを目的とする。

■ 授業の到達目標

教養教育の科目であり、専門知識がなくても理解できるレベルである。
以下を到達目標とする。
基本的な呼吸の仕組み、肺の働きについて説明できる。
代表的な呼吸器疾患の成り立ちを説明できる。
呼吸器疾患やアレルギー疾患の予防法や治療法の基本について説明できる。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 -
D：社会的倫理観・国際性 -

この科目を受講することによって、人体の巧妙な仕組みと各種疾患が発症するメカニズムを理解することはいろいろな学部の専門教育にも通じるところがある。また、自己の健康管理にも役立つものである。

■ 授業概要

呼吸機能について、また喫煙の健康への影響、呼吸器疾患とアレルギー（肺癌、結核、肺炎、睡眠時無呼吸症候群、喘息、花粉症など）をやさしく、予防法なども含めて解説する。（呼吸器疾患、アレルギー疾患、感染症に対する専門医である教員が、その実務経験を活かして授業を行う。）

■ 授業の形式（授業方法）

講義形式が主体である。

■ 授業スケジュール

全担当：久田

- 第1回 肺の働き、呼吸の役割
第2回 タバコの影響・・・軽いタバコならいいのでしょうか？ 新型タバコは？
第3回 タバコ病である肺気腫（COPD）を知り、あとで後悔しないようにしましょう
第4回 肺がんを知り、予防に心がけましょう
第5回 睡眠中に息がとまっていませんか？ 睡眠時無呼吸症候群
第6回 結核、なぜマスクで騒がれたのでしょうか？
第7回 まとめ①
第8回 肺炎・インフルエンザ 超高齢社会において
第9回 アレルギーは、どうしておこるのでしょうか？
第10回 喘息はなぜおこるのでしょうか？ 予防と治療は？
第11回 花粉症を何とかするには？
第12回 鳥の飼い主などを襲う息苦しい病気 - 過敏性肺炎
第13回 環境や職業によっておこる肺の病気？
第14回 食事による病気の予防！ 呼吸器疾患やアレルギーにも・・・
第15回 まとめ②
第16回 試験

※ 予定が変更になる場合には、随時連絡します。

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

毎回資料またはプリントを用意する。Moodleにより予習また復習し、知識を確実なものにして欲しい。

毎回のリアクションペーパーについて記載し提出する。

試験は記述式であり、プリント内容を理解していれば解答できる。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

各回で課されたリアクションペーパーの記述内容および講義内容に関して課される最終筆記試験の結果などにより評価する。

基本的理解 A・B

レポートの適切な記載 A・B

履修の手引きに記載されたルーブリックに基づいて行われる。

S評価、90点以上かつ受講者のなかで特に優れていると判断される者、A評価、80点以上でS評価以外の者、B評価、70-79点の者、C評価、60-69点の者、D評価、60点に満たない者。ただし試験問題の難易度によって評価を調整する場合もある。

■ 受講条件（履修資格）

全学部生

■ メッセージ

肺の病気は、年齢を問わず発症し、様々なものがある。病気の本質とその予防法を理解し、健康な生活を送れるように今から努めよう。新しい健康に関する話題も随時取り入れてやさしく解説していく。

■ キーワード

肺、呼吸器、喫煙、肺がん、結核、アレルギー、喘息、睡眠時無呼吸症候群、 ω 3脂肪酸、アクティブラーニング、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

Moodleから講義で使用する資料、プリント等を見ることができる。必要に応じてプリントを配布する。

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3912>

■ 授業言語

教科書・資料：「日本語と英語」

講義・討論：「日本語」

2022 年度 前期 教養教育		日英区分：日本語
生命保険の仕組みと活用を考える		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB1279	LB-1-IS0041-J	【教養教育】総合科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
杉山 学 [Sugiyama Manabu]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

社会保障制度の仕組みや自助努力で将来に備えることの重要性を理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組み・役割等について学ぶことを通じて、これからの持続可能な社会を営む一員として役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

■ 授業の到達目標

社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することが出来る。
現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組みを理解し、説明することが出来る。
大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することが出来る。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ◎
B：論理的・創造的思考力 ◎
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 ○

■ 授業概要

この授業では、まず私たちを取り巻く経済環境について概観する。
その理解の上に立ち、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、公的保障と私的保障の多様なあり方や、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性や有用性について理解し、考察を深めていく。
また、グループ単位で課題分析・解決策等を議論し、提言としてまとめあげるグループディスカッションも予定している。
全ての講義において、大手生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業全般に深く精通した幅広い知識・経験・実績を有する講師陣が担当する。
経験談や最新の情報提供も随所に織り込み、理論と実践の両面から理解を深めていく。

■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習（グループディスカッション）。
演習（グループディスカッション）は2回程度、少人数に分かれて与えられたテーマに対する解決策の議論等を行う。

■ 授業スケジュール

- 1：オリエンテーション・生保総論
- 2：生活設計とリスク管理
- 3：公的保障と生保（死亡・医療）
- 4：公的保障と生保（老後・介護）
- 5：生保契約の仕組み
- 6：生保と税金
- 7：グループディスカッション
- 8：生保商品の変遷・動向
- 9：生保に関する調査
- 10：生保会社の組織・業務
- 11：資産運用
- 12：金融ADR
- 13：震災対応
- 14：グループディスカッション
- 15：総括

※受講生の理解度や履修人数によっては、内容・順番を見直す場合があります。

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

授業で使用した資料に基づいて一時間程度の復習を行うことが、内容理解において必要です。復習として小レポートの課題を行い提出する。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

<オンライン授業のため変更>

毎回の課題提出を基本に、受講状況を見ながら、総合的に評価することとします。
最終試験は実施しませんが、商品提案ディスカッション、及び、最終提出レポートでは、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

<下記は変更前>

授業への参加度+（受講回によって実施）小レポート等の内容 60点（A,B,C,D）

「最終試験得点」40点（A,B,D）で評価します。

最終試験は学期末に実施します。下記の観点から評価を行います。

- ・社会保障制度の概要の理解
- ・生命保険の意義・役割・仕組み等の理解

小レポート（A,B,D）、グループディスカッション（B,C）では、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

■ 受講条件（履修資格）

■ メッセージ

少子高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況について、メディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなると考えます。

■ キーワード

公的保障と私的保障
公助と自助
生活設計
リスク管理
実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

毎回の講義時に資料を配布する。

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4022>

■ 授業言語

教科書・資料：日本語
講義・討論：日本語

2022 年度 前期 共同教育学部		日英区分：日本語
教職論		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2008	EB-1-AA0201-J	【共同教育学部】教育基礎科目
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
安藤 哲也 [Tetsuya Andoh]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	1年次～1年次	1

■ ■ 授業の目的

教職入門期に、教師として必要とされる資質・能力等について理解するとともに、目指す教師像を自分なりに具体化していくことをねらいとする。

■ ■ 授業の到達目標

- ・「心ある教師」に必要な資質・能力について理解するとともに、その教育態度について実感することができる。
- ・教師としての成長と振り返り(リフレクション)の関係について、体験的に理解することができる。
- ・自身の理想とする教師像を具体化することができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- E：学校教育・教職の基礎理論と知識 ○
 F：子どもの成長・発達と教育方法 ○
 G：教科・教育課程に関する知識と技能 -
 H：学校教育に関する様々な課題 ○
 I：他者との協働 ○

■ ■ 授業概要

本講義は、教師の日常的職務活動の具体的な場面を想定し、学級担任としての具体的な教育行為について考察・体験することを通して、教育実践者としての教師のリアリティに接近する。幼・小・中・特支学校で学級担任として勤務した経験を適宜紹介しつつ、学校種(子どもの発達)を超えた教師としての有り様と学校種(子どもの発達)に応じた教師の有り様についても考察していく。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習。講義では、各回に提供された話題について4～6名程度のグループで話し合い、自分なりの考えをもつ機会を設ける。また、本授業のまとめとして位置付ける演習では、学級開きの場面を想定し、学級担任として子どもたちに語りかける活動を行う。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回：なぜ教師を目指すのか（本講義を貫く課題について）
 第2回：教師とは（「心ある教師」の姿から考える）
 第3回：教師に求められる資質と能力
 第4回：教師の仕事と責務
 第5回：チームでつくる学校・学級（学校内外の専門性を活用して）
 第6回：教師としての成長を促すもの（同僚性・協働性を基盤として）
 第7回：教師として語る（模擬授業と交流会）
 第8回：理想とする教師像
 レポート提出

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

事後学習として、各回的小レポートとそれに付した教員のコメントをもとに授業内容を振り返り、考察を深める。また、授業内で紹介した図書や資料を読み、さらに学びを広げたり深めたりする。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

成績評価の方法：

- ・授業への積極的な参加態度(20%) I
- ・毎回実施の振り返り小レポート(60%) E,F,H
- ・課題レポート(20%) E,F,H

成績評価の基準：

- ・教師に求められる資質・能力と教師としての成長を促す省察の重要性について理解している。
- ・自身の理想とする教師像を具体化している。

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

■ ■ キーワード

教師の資質・能力 省察 同僚性・協働性 アクティブラーニング 実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

LMSから毎回の講義で使用する講義資料、ワークシート等をダウンロードできる。

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

■ ■ 授業言語

2022 年度 前期 共同教育学部		日英区分 : 日本語
教育とICT活用		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2057	EB-1-AB0403-J	【共同教育学部】教育基礎科目
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
鈴木 豪 [Goh Suzuki], 紺谷 正樹 [Konya, Masaki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	1年次 ~ 1年次	1

■ ■ 授業の目的

現代の学校教育において、情報通信技術の活用は不可欠なものになりつつある。本講義では、教育現場における情報通信技術（ICT）の意義やあり方、活用方法等について、基礎的な理解をすることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

- ・学校教育における情報通信機器の活用と意義について説明できる
- ・情報機器通信機器を活用する際の注意点（情報モラルなど）について説明できる
- ・学校におけるICT環境整備ならびに外部人材との連携のあり方について説明できる
- ・タブレット端末を活用した学習指導をはじめとする教育の情報化について説明できる

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- E：学校教育・教職の基礎理論と知識○
F：子どもの成長・発達と教育方法◎
G：教科・教育課程に関する知識と技能○
H：学校教育に関する様々な課題○
I：他者との協働△

■ ■ 授業概要

本講義では、ICT機器の教育活用における意義や活用方法について説明する。
なお、実務経験を有する教員については、主として中学校教科学科における情報通信機器を活用した学習場面の整理と教育効果の検証の経験を生かして、タブレット端末を活用した指導技術の理解とその指導法に関する授業等を実施する。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

基本的には教員からの講義形式で進める。ただし、学生同士のグループワークや意見交換等も必要に応じて随時行う。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回：現代の学校教育における情報通信技術活用の意義と在り方（鈴木）
第2回：特別の支援を必要とする児童生徒への対応と情報通信機器の活用（鈴木）
第3回：ICT環境整備ならびに校務システムの構築と外部人材等の連携（紺谷）（実務経験のある教員による授業）
第4回：タブレット端末を活用した指導技術の理解とその指導法（紺谷）（実務経験のある教員による授業）
第5回：スタディログを活用した教育評価ならびに教育情報セキュリティ（紺谷）（実務経験のある教員による授業）
第6回：オンライン教育システムの意義ならびにその活用方法（紺谷）（実務経験のある教員による授業）
第7回：教科教育（教科横断的な教育を含む）と情報活用能力・情報モラルの指導（鈴木）
第8回：情報通信機器の操作の指導法（鈴木）

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

毎回、LMS上に小課題を掲示するので、取り組むこと。
また、配付資料以外の参考資料もLMSに掲示したり、リンクを作成するので、確認すること。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

毎時間の小課題並びに2回のレポート課題提出をもって総合的に評価する。

毎回の講義に付随する小課題の提出状況(20%)(EFGH)

レポート課題（鈴木出題）（40%）(EFGH)

レポート課題（紺谷出題）（40%）(EFGH)

レポート課題は、主に、
・授業内容を踏まえたものになっているか
・内容が論理的でわかりやすいか
の観点から評価される。

■ ■ 受講条件（履修資格）

共同教育学部生（2022年度以降の入学者）

■ ■ メッセージ

■ ■ キーワード

情報通信技術（ICT）、教育法法学、タブレット端末、GIGAスクール、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

この講義では、群馬大学LMSではなく、共同教育学部LMSを使用しますので、注意してください。

<https://lms.edu.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=1237>

■ ■ 授業言語

2022 年度 前期 共同教育学部		日英区分：日本語
小学校音楽 A		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2100	EB-2-BA0601-J	【共同教育学部】 小学校教科・指導法
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
菅生 千穂 [Sugo Chiho]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次～3年次	1

■ ■ 授業の目的

小学校教科「音楽」を指導するために必要な基礎的能力を身につけること。

■ ■ 授業の到達目標

- 小学校教科「音楽」を指導するために必要な基礎的能力を身につけること。
- 1) 小学校音楽の授業において必要とされる音楽の構成要素とその表記の方法がわかる。
 - 2) 音階、和音、リズムと拍子の基礎について理解し、選んだり工夫したりして使用できる。
 - 3) 調性の基礎について理解する。
 - 4) 伴奏つけの基本について理解し、簡単なリズムパターン等による伴奏付けができる。
 - 5) 歌唱の基本的考え方を理解する
 - 6) 創作の基本的考え方を理解する

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

この授業は本学のディプロマポリシー項目に下記のように関連する。

- E：学校教育・教職の基礎理論と知識（Basic theory and knowledge about school education and teaching profession）○
 F：子どもの成長・発達と教育方法（Growth and development of children and educational methods）◎
 G：教科・教育課程に関する知識と技能（Knowledge and skills related to subjects and curriculum）◎
 H：学校教育に関する様々な課題（Various issues related to school education）○
 I：他者との協働（Cooperation with others）○

■ ■ 授業概要

小学校音楽専科教員の実務経験を持つ教員が、その実務経験を活かして本授業を行う。

- 下記の内容にそって、講義をもとに音楽の基礎的知識を身につけながら、実技も学習する。
- 1) 小学校音楽の授業において最低限必要とされる基礎的な範囲で、音楽の構成要素とその表記の方法を知ること（楽典）。
 - 2) 音階、和音、リズムと拍子の基礎について理解する。
 - 3) 調性の基礎について理解する
 - 4) 伴奏つけの基本について理解し、簡単なリズムパターン等による伴奏付けができる。
 - 5) 歌唱の基本的考え方を理解する
 - 6) 創作の基本的考え方を理解する

■ ■ 授業の形式（授業方法）

クラス形式の講義と演習（ピアノの演習・楽器を用いた演習）

■ ■ 授業スケジュール

小学校音楽専科教員の実務経験を持つ教員による授業（全回）

- 第1回：ガイダンス、および小学校教科「音楽」について
 - 第2回：基礎楽典① 音階のしくみ
 - 第3回：基礎楽典② 和音のしくみ
 - 第4回：基礎楽典③ リズムと拍子
 - 第5回：演習① 八長調・イ短調の演奏
 - 第6回：演習② ト長調・ホ短調の演奏
 - 第7回：演習③ ヘ長調・ニ短調の演奏
 - 第8回：演習④ リズムパターンと伴奏付け
 - 第9回：演習⑤ 歌唱
 - 第10回：演習⑥ 歌唱
 - 第11回：演習⑦ 創作
 - 第12回：演習⑧ 創作
 - 第13回：演習⑨ 様々な音楽活動
 - 第14回：演習⑩ 様々な音楽活動
 - 第15回：演習⑪ 様々な音楽活動
- 定期試験

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
 学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
 講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
 実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

教科書や関連研究等の予習・復習を勧める。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

平常の積極的参加状況（授業記録カードを含む）、グループ発表、楽典テストにより総合的に判断する。

■ 受講条件（履修資格）

■ メッセージ

学校での音楽は、教師（みなさん）自身が楽しみながら、授業を行うことが大切です。みなさんも、楽しみましょう。自宅でオンラインで受講する人は、練習できるキーボード（小さくても良い）やピアノを用意してください。自分のリコーダーも手元に用意してください（実家等にある人は、持ってきてください）。

■ キーワード

小学校音楽、伴奏付け、器楽、歌唱、創作（音楽づくり）、弾き歌い、楽典、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

初等科音楽科指導法

■ 教科書

教科書1	ISBN					
	書名					
	著者名		出版社	教育出版	出版年	2017
	備考					

■ 参考書

参考書1	ISBN	9784877884222				
	書名	新 音楽の授業づくり				
	著者名	音楽の授業づくり研究会編	出版社	教育芸術社	出版年	2010
	備考					

参考書2	ISBN	9784877883775				
	書名	おんがくのしくみ ～歌って動いてつくってわかる音楽理論～				
	著者名		出版社	教育芸術社	出版年	2008
	備考					

参考書3	ISBN	9784534038661				
	書名	やさしくわかる楽典				
	著者名	青島広志	出版社	日本実業出版社	出版年	2005
	備考					

参考書4	ISBN	9784877883232				
	書名	心を育む子どもの歌				
	著者名	南 曜子、今村方子、今川恭子	出版社	教育芸術社	出版年	2010
	備考					

参考書5	ISBN	9784316804415				
	書名	「先生力」をつける!…待ち遠しい音楽授業のために				
	著者名	橋本龍雄, 松永洋介, 吉村治広著, 橋本, 龍雄, 松永, 洋介, 吉村, 治広,	出版社	教育出版	出版年	2017
	備考					

参考書6	ISBN	9784316406633				
	書名	Music Navigation : 音楽史・楽典・ノート				
	著者名		出版社	教育出版	出版年	2013
	備考					

■ 教科書・参考書に関する補足情報

教科書、自宅練習のための鍵盤楽器、リコーダーの用意について授業内で案内する

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=1933>

■ ■ 授業言語

2022 年度 後期 共同教育学部		日英区分:日本語
初等国語科指導法		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2113	EB-2-BB0101-J	【共同教育学部】 小学校教科・指導法
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
瀬田 秀行 [Hamada Hideyuki], 河内 昭浩 [Akihiro Kawauchi], 永由 徳夫 [Nagayoshi Norio]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次～2年次	2

■ ■ 授業の目的

小学校国語科の授業を実践する資質・能力を高めるために、学習指導要領に基づく小学校国語科の学習指導の目標・内容・方法について理解を深める。小学校国語科の授業において「主体的・対話的で深い学び」を実現することができるようになることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

学習指導要領に示される目標・内容・方法を踏まえた小学校国語科の授業実践を構想することができる。
小学校国語科の学習指導案を作成することができる。
「指導と評価の一体化」について説明ができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- E: 学校教育・教職の基礎理論と知識 -
- F: 子どもの成長・発達と教育方法 ○
- G: 教科・教育課程に関する知識と技能 ◎
- H: 学校教育に関する様々な課題 ○
- I: 他者との協働 ◎

■ ■ 授業概要

小学校国語科の授業を構想する上で踏まえるべき「学習指導要領解説国語編」の内容について知識を得る。
他者と協働しながら小学校国語科の学習指導の計画を作成する。
学校での実務経験のある教員が、その実務経験を生かして国語科の指導方法についての授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義を演習を組み合わせる。グループワークを行う。

■ ■ 授業スケジュール

- 1 小学校における「ことば」の学び
- 2 国語科学習指導の枠組み（言語活動）
- 3 「読むこと」の指導①
- 4 「読むこと」の指導②
- 5 「主体的・対話的で深い学び」の実現（ICTの活用について）
- 6 実践者から学ぶ①
- 7 実践者から学ぶ②
- 8 書写①
- 9 書写②
- 10 国語科学習指導の目標
- 11 国語科学習指導の内容と構造
- 12 国語科における「知識及び技能」
- 13 「書くこと」の指導①
- 14 「書くこと」の指導②
- 15 総括討論

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

授業時間外学習課題が課される（授業時間90分に対して180分の予復習が必要である）。LMSの情報を確認し次回の授業内容の予習を行うとともに、指示ある場合、復習に相当する課題を翌週の授業時間までに提出すること。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

授業中の課題への取り組み（20点） G, I
授業の振り返りと授業後の課題（30点） F, G
レポート（50点） G, H

※評価は担当教員ごとに算出し、担当回数の割合に基づき100点満点になるよう合算します。

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

本授業での学びの一つ一つが、これからの教育実習や教員生活につながっています。全力で授業に取り組んでください。

■ ■ キーワード

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

教科書1	ISBN	4491034621				
	書名	小学校学習指導要領解説国語編				
	著者名	文部科学省	出版社	東洋館出版社	出版年	2018
	備考					

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

■ ■ 授業言語

2022 年度 前期 共同教育学部		日英区分：日本語
教育現場体験学習		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
EB2568	EB-1-IA0201-J	【共同教育学部】総合教職科目
■ 担当教員（ローマ字表記）		
教育実習委員会, 日置 英彰 [Hioki Hideaki], 吉田 浩之 [Hiroyuki Yoshida], 安藤 哲也 [Tetsuya Andoh], 紺谷 正樹 [Konya, Masaki]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
	1年次～4年次	1

■ 授業の目的

公立小学校または中学校で、学校教育活動の一端に携わる体験学習をし、児童生徒とのふれあいを通して学校現場についての理解を深める。

■ 授業の到達目標

学校現場についての理解をもとに教師として必要な資質・能力について考えることができる。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- C：コミュニケーション能力 ○
 E：学校教育・教職の基礎理論と知識 ○
 F：子どもの成長・発達と教育方法 ○
 G：教科・教育課程に関する知識と技能 ○
 H：学校教育に関する様々な課題 ○
 I：他者との協働 ○

■ 授業概要

公立小学校または中学校に向向いて学校教育活動の一端に携わる体験をする。子ども達とのふれあいを通して学校現場についての理解を深めるとともに、学校における授業や授業以外の仕事について理解し、教師として必要な資質・能力について考える。

■ 授業の形式（授業方法）

公立小・中学校での実習

■ 授業スケジュール

- 学部オリエンテーション・専門教育について（教育実習委員長）
4月 5日（水）13：30～14：00
- 事前指導①（教育実習委員会、附属小・中学校副校長）
5月23日（月）16：00～17：50
- 事前指導②（教育実習委員会）
6月13日（月）16：00～17：30
※「ふれあい体験」の実習校ごとに、実習生同士の顔合わせを行う。
- 事前指導③（講座別）※2年生の体験談発表あり
6月20日（月）16：00～17：30
- 実習校担当学部教員との事前打合せ及び指導（グループごと）
6月下旬～7月中旬
- 実習校での事前打合せ（グループごと）（各実習校にて）
7月中旬～8月下旬
- 教育現場体験学習（ふれあい体験）（公立小学校又は中学校）
9月中の約5日間
- 事後指導（講座別）
10月17日（月）16：00～17：30

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

予習として「教育現場体験学習 手引きと記録」を熟読しておくとともに、復習として記録を整理する。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

出席状況、事前学習等の理解度及び履修態度、教育現場体験学習の取り組み状況、事後学習の履修状況、「手引きと記録」の記入状況等をもとに、総合的に評価する。

■ 受講条件（履修資格）

1年次

■ メッセージ

3年次での教育実習（本実習）の大切な基礎となります。しっかり学びましょう。

■ キーワード

ふれあい体験、教育実習、観察実習、授業実践基礎学習、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

授業実践基礎学習（2年次）

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

参考書1	ISBN					
	書名	教育実習の手引き				
	著者名		出版社		出版年	
	備考					

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

■ ■ 授業言語

2022 年度 前期 共同教育学部		日英区分：日本語
授業実践基礎学習		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
EB2570	EB-2-IA0301-J	【共同教育学部】総合教職科目
■ 担当教員（ローマ字表記）		
教育実習委員会, 日置 英彰 [Hioki Hideaki], 吉田 浩之 [Hiroyuki Yoshida], 安藤 哲也 [Tetsuya Andoh], 紺谷 正樹 [Konya, Masaki]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
	2年次～2年次	1

■ 授業の目的

1. 小・中学校における授業実践(学習指導)の基礎を学ぶ。
2. 授業を観察し、観察の方法、授業の構成、進め方等について学ぶ。
3. 学校における各種の教育実践について見聞を広げる。

■ 授業の到達目標

- ・学校現場における教育諸活動を注意深く見聞し、学校教育の実際について初歩的理解を得る。
- ・実習を通して観察能力を養う。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- C：コミュニケーション能力 ◎
 E：学校教育・教職の基礎理論と知識 ○
 F：子どもの成長・発達と教育方法 ◎
 G：教科・教育課程に関する知識と技能 ○
 H：学校教育に関する様々な課題 ◎
 I：他者との協働 ◎

■ 授業概要

教育現場の講師から学習指導の実際について具体的な講義を受ける。また、附属学校で、教育実習生が行う研究授業の参観と授業研究会への参加を通して、学習指導について学ぶ。

■ 授業の形式（授業方法）

附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校での実習

■ 授業スケジュール

- (1) 全体オリエンテーション及び講義（附属小・中学校副校長）
5月18日（水）14：20～16：50
- (2) 講義（附属特別支援学校副校長）
5月25日（水）14：20～15：20
・特別支援学校（障害児教育専攻2年生、他専攻で特別支援（卒業要件外）を履修している2年生）
- (3) 講義と演習（附属幼稚園講師）
6月1日（水）14：20～17：40
- (4) 事前指導①（教育実践センター）
6月8日（水）14：20～17：40
- (5) 事前指導②（附属小・中学校講師）
6月15日（水）14：20～17：40
- (6) 事前指導③（講座別）
8月31日（水）9：00～17：00
・全体指導 9：00～9：30
・特別支援学校 9：40～11：10
（特別支援教育専攻2年生、他専攻で特別支援（卒業要件外）を履修している2年生）
・小・中学校 13：40～17：00（各講座1時間）
- (7) 観察実習Ⅰ（附属小学校又は附属中学校で実施）
①附属小学校：9月6日（火）、7日（水）、13日（火）、14日（水） ※いずれかの1日
②附属中学校：9月6日（火）、7日（水） ※いずれかの1日
- (8) 観察実習Ⅱ（附属小学校又は附属中学校で実施）
①附属小学校：9月8日（木）、9日（金）、15日（火）、16日（水） ※いずれかの1日
②附属中学校：9月8日（木）、9日（金） ※いずれかの1日
- (9) 観察実習・特別支援（附属特別支援学校で実施）
対象：特別支援教育専攻2年生、他専攻で特別支援（卒業要件外）を履修している2年生
9月16日（金）
- (10) 観察実習・幼稚園（附属幼稚園で実施）
対象：幼稚園での観察実習を希望する2年生
9月14日（水）、15日（木） ※いずれかの1日
- (11) 事後指導①（講座別 小・中学校）・後期履修ガイダンス
10月5日（水）14：20～17：30
・小学校講義 14：20～15：50
・中学校講義 16：00～17：30
・後期履修ガイダンス 17：40～18：10
※教育・教育心理・特別支援教育専攻の学生は中学校講義を卒業要件免許又は要件外免許に係る中学校教科の専攻で受講
- (12) 事後指導②（講座別 特別支援学校）
10月12日（水）14：20～15：50
・特別支援学校（特別支援教育専攻2年生、他専攻で特別支援（卒業要件外）を履修している2年生）
- (13) 事後指導③（教育実践センター）
10月19日（水）14：30～18：10

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

予習として「授業実践基礎学習 事前・事後学習の記録」を熟読しておくとともに、復習として記録や課題レポート等を整理する。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

出席状況、事前学習等の理解度及び履修態度、観察実習の取り組み状況、事後学習の履修状況、「事前・事後学習の記録」の記入状況等をもとに、総合的に評価する。

■ 受講条件（履修資格）

2年次

※教育現場体験学習(1年次)の単位を修得済みであり、かつ修得単位数が35単位以上（1年次末時点）の者

■ メッセージ

教育実習（本実習）への大切な基盤となります。しっかり学びましょう。

■ キーワード

教育実習、ふれあい体験、観察実習、教育現場体験学習、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

教育現場体験学習（1年次）

■ 次に履修が望まれる科目

教育実習（3年次）

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

参考書1	ISBN					
	書名	教育実習の手引き				
	著者名		出版社		出版年	
	備考					

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

■ 授業言語